

\*\*\*以下、5名の連携協議委員の方のシートコメントをそのまま抜粋し、掲載しております。

1. 現行の必修9科目に関してのご意見

経営学修士を目指すためには、必要な科目展開になっているが、次の2点を考慮する必要があると考えます。

1. AIに代表されるような時代ごとに生まれてくる最新知識、最新トレンドの習得を、選択科目ではなく、必修科目に組み込まなくてよいか。

2. 多忙かつバックグラウンドが多様な社会人にとって、すでに体得している知見（たとえば、アカウンティング）の科目を必修で基礎から学ぶ時間は割きたくないという意見もあるでしょうから、何らかの資格等の客観的証明があれば、当該必修科目は、試験だけでよいとか等の柔軟な対応も必要ではないか。

・現状の必修科目数はトータルの単位数・履修時間とのバランス等を考慮し、妥当

・その後の授業に必要な科目だが、その内容については時代、ニーズの変化もあり

再検討の余地があり、科目の統合などの可能性も検討し、最適化を進めたら良い

・必修のクラス分けは、学生の交流（修了後含む）にプラスになっているのではないか

他の委員の皆様のご意見と同様、カリキュラム全体が大学院のミッションや存在意義につながるものだと考えます。目的に到達するために必要なものは必修として設置し、ABSの独自性を示すことは重要です。一方で、専門職大学院として、仕事をしながら貴重な2年間をどのように配分して時間を使い、何を学ぶのか、学生のニーズも様々だと考えます。目先の学生に左右されず、ある程度の普遍性をもって、カリキュラム、そしてそのなかの必修科目を考えることが重要だと考えます。

---

OB として、在学中や修了後に聞いた意見として、ABS の必修があったことが学びなおしにつながった、という声を複数聞いていますので、今の配分はある程度学生のニーズにもあったものではないかと思えます。

---

・カリキュラムの構造は必修科目、基本科目、英語科目、専門科目、アクションラーニング科目と細かく体系化されているが、一方で、AI の進展、地政学的変化、リーダーシップの質の変化、イノベーションといった「変化」にどう柔軟に対応していくかが課題と感ずます。必修科目を再編するというだけでなく、必修科目の中に、時代の変化に対応するコンテンツ（AI、デジタル、社会的リスクの対応など）を一部でも盛り込んでいくという対応の方法も有効であるように感ずます。

---

・カリキュラムの検討に当たって、必修科目で、どんな知識・考え方を理解してもらおうか、そのリストを各トラックの教員で慎重に検討するプロセスが大切であると思えます。そこでの合意がないと、カリキュラムの骨格が float around してしまうリスクを感ずます。トラック内での検討で、教育方法の検討も進めていく必要を感ずます。

---

・上記の議論を踏まえて、科目の名称を update していく余地があるように思えます。一部の科目名称が traditional な印象を与えてしまうためです。

---

・必修科目とミッションの対応が示されるとベターであると思えます。ABS の立地を反映した学生やインダストリーの特性（IT 産業、ファッション産業など）との対応関係も、ABS のブランディングという点で考慮していくことが必要と感ずます。

---

経営環境の変化の大きい現在、必修科目を 10 数年ぶりに見直すことは必要と思えます。例えば、地政学とマクロ経済・国際経済を学ぶことは不可欠と考ずます。特に国内市場の成長余地が限られていることから日本企業はますます海外ビジネスを発展させる必要がありますが、その際に地政学とマクロ経済・

---

国際経済の理解はリスク管理上も不可欠だと思います。

---

一方で、必修科目は青山ビジネススクールがこれからのビジネスリーダーにとって必要不可欠なものを教えるという意思を反映させるものでもあり、学生にとって人気があるかは二次的な問題と考えます。

---

さらに企業会計においては財務会計のみならず管理会計も必修化すべきと考えます。管理会計は企業をコントロールするうえで不可欠なツールで、日本企業があまり得意としていない分野です。またコントロールという考え方は、例えば海外の企業を買収した後の PMI 上も不可欠です。

---

一方でミクロの経済学（企業経営の経済学）は経営戦略の中に取り組んでも良いかと思えます。

---

ビジネス倫理は、倫理の理論を教えるだけでなく、リーダーとして倫理的判断を問われる難しい状況におけるケースを議論して、学生が自身の倫理観を自覚する場を提供するのも良いと思えます。

---

・必修科目の選定と構成は、ABS のミッションを反映したものとする必要があります。両者は密接に関連しており、必修科目の内容がミッションを具現化する役割を担うべきです。

---

・ミッションでは特に「社会的責任」「グローバル市民」「創造的リーダーシップ」が強調されているため、理想的には必修科目の中にこれらを扱う科目を含めることが望ましいと考えます。あるいは、各必修科目の学習目標や授業の一部に必ずこれらのテーマを組み込むことも有効です。

---

・経済学は必須ではないと考えます。経済学は経営理論の基盤であり、戦略論（例：マイケル・ポーターのフレームワーク）など他の経営・ビジネス関連科目の中に自然に組み込まれているからです。

---

・地政学と、それが不確実性の高い現代ビジネス環境に与える影響を扱う科目があると有益です。これは創造的リーダーシップの重要性とも密接に関連します。

---

・創造的リーダーシップの観点からは、イノベーション・マネジメントやアントレプレナーシップを扱う科目も含めることが望ましいと思えます。

---

・デジタルトランスフォーメーションや AI は必ず取り上げるべきテーマです。専用科目として設置する方法もありますし、マーケティングにおけるデジタルマーケティング、戦略における AI 活用など、他の

---

全科目の中に統合的に含める形でも良いでしょう。

---

・全体的にシラバスは標準的な印象を受けます。それ自体に問題はありませんが、ABS のミッション（ABSらしさ）に沿った特徴づけや、最新のビジネス潮流（デジタル、AI 等）を反映させることでさらに充実できると思います。また、一部の教科書は多少古く、新しい教科書や参考文献に差し替える余地があります。

---

・科目名の見直しも有効です。例として「統計学」ではなく「データサイエンス」とすることで内容の現代性を示せます。

---

・ABS の主要な教授法（ケースメソッド等）が、全科目のシラバスからより明確に伝わるよう工夫することも望まれます。

---

---

## 2. ABS の今後の運営のあり方

---

今年から新体制となり、協議委員の人数も大きく絞り込まれました。併せて、議論が多岐に渡らぬように、今年から議論テーマを絞って、深い討議をするようにしてみました。試行した結果、闊達かつ多様な意見交換になったのではないかと思います。

---

当面 2-3 年は、テーマを絞った議論を集中して実施する運営を続けていくことで良いのではないかと考えます。

---

そのうえで、中間時点での執行部側の取り組み、その後に生じた課題などを、書面もしくはオンラインでの報告会（議論まではせず、質疑のみ。参加任意）を実施してはどうかと思います。事実情報のインプットは、頻度も、質を上げる行動の一環ですので、検討してみてもどうかと考えます。

---

---

・専門職大学院として、単なる学究の場ではなく、高い視座を持ったプロフェッショナル、あるいは社会に

---

おけるリーダーを生み出す場として、ABS の存在意義を外部のメンバーを交えて議論し、今後のより良い方向性を見つけていくことは重要と考える。今回、教育課程連携協議会の委員や内容を見直されたとのことだが、このメンバーで活発な議論ができたことはとても良かった。

---

・OB としては、自身の修了後に欧州認証を取得され、またこれにとどまらず、次のステップを目指していることをとても嬉しく思っている。世の中の変化が大きい中で、現状にとどまり続けることはもはやリスクとなっており、どんなに優れたものでも、状況に合わせて変化し続けなければ生き残ることができない。日本の古くからある企業がいろいろな壁にぶつかっているなかで、働く選択肢として外資系、ベンチャー、あるいは起業や新規事業立ち上げという選択肢も増え、ABS の人財が多方面で活躍していることはとても心強い。常に時代にフィットした人財輩出を目指し、ABS の運営もフレキシブルに対応していただきたい。

---

・卒業生アンケートなどを用いて、定量的にカリキュラムを分析・評価して改善していこうとするアプローチは大変に優れていると思いますが、一方で、ニーズの多様化や技術の進展によって、ビジネススクールへの要望・期待は刻々と変化していってしまいます。ABS の伝統や立地をベースとして、他校にない強みを強化し、ABS の価値を社会・産業界にいかにつなげていくか、その点に大きな改善余地を感じます。

---

・今回の Advisory Board も、従来とは大きく異なる改善がなされているようですが、それでもまだ、伝統的な大学としての「教育体系」という考え方から脱却できていないように思います。ビジネス経験者が半数以上を占めるという学生プロフィールの強みを生かし、教員と学生が相互に学び合うようなカリキュラムコンテンツと教育方法を工夫していくことに、ABS としての存在基盤があるように感じています。この点は、もう一步ミッション重視の運営を深めるべき、というように表現できるかもしれません。

---

---

---

ABS はしっかりと MBA 教育をしている割に、その知名度がないと思われます。マーケティング活動をさらに強化することと ABS の特徴をもっと前面に出して興味を持ってもらうようにすべきだと思います。また、大切なアセットである卒業生の Reunion 活動もより活発化して、母校に対する貢献をよりしてもらえる土壌を作ることも必要だと思います。

---

---

今回議論できませんでしたが、何かを強化するためには何かを捨てる事も必要となると思います。そのことで ABS の特徴をよりとがったものとする事も必要と思います。

---

---

教授法としてのケースメソッドの導入に対して熱心に取り組んでいることは素晴らしいと思います。レクチャーによる知識の伝授に加えて、益々解の無い状況が増える経営環境の中で、自分なりの解を模索する思考力と難しい経営判断ができる能力・胆力を養ううえでケースメソッドは有効と思います。

---

---

また二つ目の国際認証の取得に取り組まれていることも良いことと思います。国際認証取得と維持のための負担は大きいですが、グローバルスタンダードに近づくことは国際マネジメント教育をうたっている以上不可欠と思われます。

---

---

・教育連携協議会の開催頻度：年 1 回では十分に機能しにくいと考えます。少なくとも年 2 回、理想的には年 3~4 回（四半期ごと）程度の開催を推奨します。

---

---

・参照すべきビジネススクール：グローバル一流校をベンチマークとし、目標像として位置づけるのは有効です。どの学校が ABS のミッション・ビジョンに最も適しているか検討・議論することが重要です。

---

---

HBS は出発点として有力ですが、IMD、INSEAD、IESE（欧州）、Tuck、Wharton、Schulich（北米）、

---



---

という経過延長措置を設けるなどの工夫は必要かもしれません。

---

---

HBS において、海外でのプログラム参加が必須というなお話があり、ABS においても過去から行われているマレーシア研修以外に、海外研修を増やすことを検討されていると伺った。一方で、アレンジ、引率など、教員の方たちのご負担もかなり大きいとのことで、ぜひ、OB を中心としたリソースをうまく活用し、カリキュラムの充実やご負担の軽減につなげていただきたい。国際マネジメントの名称がつく ABS において、海外関係のカリキュラムの充実はひとつの武器になると考えている。

---

---

・教員プロフィール、カリキュラム構成、学生プロフィール、どれを見ても日本のトップ BS となる資格条件を満たしていると考えます。一方で、どうしても日本の伝統的な「大学教員」としての運営に重点が置かれていることに、何とも言えない「もどかしさ」を感じます。ABS のミッションに立ち返り、同時に中長期での「目指す姿」を議論して共有していくことが不可欠のように感じます。

---

---

学生同士から学ぶことは大きいと思います。その為にも現状より多い学生が入学することも必要です。入学する学生の質を落とすことなく学生数を増やすためにも、一層のマーケティング活動を進めて頂きたいと思います。

---

---

今掲げているミッションそのものは素晴らしいものが有りますが、今少し単純化したバージョンもつくり教職員と学生に浸透しやすくして、日々の行動に反映するように工夫されたら良いかと思います。

---

---

・ミッション：現行のミッションは汎用的であり、どのビジネススクールにも当てはまるように見えます。ABS ならではの「青山スタイル」がより明確になるミッションが必要だと思います。また、青山学院全体のブランドを活用し、「地の塩、世の光」という校訓や「サーバント・リーダーシップ」の理念と結び

---

---

つけることで独自性を強めることができます。

---

・エグゼクティブ層とのネットワーキングやブランド構築の観点から、ABS として関連団体への加盟や、教授陣（場合によっては教育連携協議会委員も）が参加・登壇できるイベントへの積極的な関与を検討することを勧めます。例：

---

- 日本取締役協会（日本企業とのネットワーキング）：<https://www.jacd.jp/>

---

- Economist Intelligence Corporate Network（外資系 MNC や日本企業とのネットワーキング）：

---

<https://corporatenetwork.com/>